

製品名: NAV3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14418**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	262kDa

抗原情報

遺伝子名	NAV3
別名	KIAA0938 POMFIL1 STEERIN3
遺伝子 ID	89795.0
SwissProt ID	Q8IVL0
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 430-510

背景

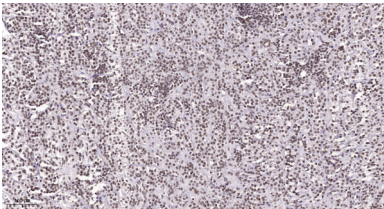
この遺伝子はニューロンナビゲーターファミリーに属し、主に神経系で発現する。コードされるタンパク質は、コイルドコイルドメインと、様々な細胞活動に関連する ATPase に特徴的な保存された AAA ドメインを含む。この遺伝子は、軸索誘導に関与する

Caenorhabditis elegans 遺伝子 unc-53 と類似している。この遺伝子には複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されているが、全長が決定されているのは1つだけである。[RefSeq 提供、2008年7月]、発達段階: 胎児脳で発現。疾患: NAV3 の欠陥は菌状息肉症の原因となる可能性がある[MIM:254400]。皮膚の悪性T細胞リンパ腫。疾患: NAV3 の欠陥は、皮膚の悪性T細胞リンパ腫であるセザリ-症候群の原因となる可能性がある。機能: T細胞によるIL2産生を制御する可能性がある。ニューロン再生に関与している可能性がある。類似性: Nav/unc-53 ファミリーに属する。類似性: 1つのCH (カルボニン相同性) ドメインを含む。組織特異性: 脳で高発現。心臓と胎盤で低発現。活性化T細胞に存在するが、休止期T細胞には存在しない (タンパク質レベル)。原発性神経芽腫では発現が低下する。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト小腸間質腫瘍の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。